

設備投資

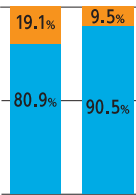
◆ 鉄道(地下鉄)事業(防災対策費含む)

2025年度は、南車両基地の工事のほか、シェルター耐震の工事等を実施しました。

その他の投資については、案内表示設備の更新や旅客用トイレの改良工事等を実施しております。

今後も必要な安全投資について継続してまいります。

事業費に占める
安全投資の割合



主な安全投資内容

● 南車両基地改築ほか工事	28.0億円
● シェルター耐震事業	16.3億円
● 南北線さっぽろ駅改良事業	14.7億円
● 信号保安装置更新工事(大通)	10.5億円
● 東豊線電力管理システム更新	10.1億円

事業投資額(千円)

年度	2024	2025
安全投資	10,990,625	17,841,663

◆ 軌道(路面電車)事業

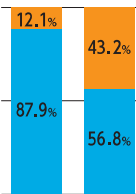
2025年度は、電車事業所改良建築工事を実施したほか、低床車両の導入等を行っております。

その他の投資については、街路拡幅に伴う整備を行いました。

2025年度は、乗り心地改善を目的とした軌道改良工事等の「その他投資」が増加した一方で、電車事業所改良建築工事の進捗に伴い、全体の「安全投資」は減少しております。

今後も必要な安全投資について継続してまいります。

事業費に占める
安全投資の割合



主な安全投資内容

● 低床車両導入	3.5億円
● 電車事業所改良建築工事	2.8億円
● 新山鼻変電所受変設備更新工事	0.3億円
● 1100形砂まき装置追加改修	0.2億円
● 直流電動機電機子軸交換	0.1億円

事業投資額(千円)

年度	2024	2025
安全投資	1,904,843	1,306,918

教育・訓練

輸送の安全を確保するために必要な知識・技能向上のため、各種訓練や教育を計画的に実施しています。



列車併結推進運転訓練



地下鉄漏水対策訓練



駅構内火災訓練



列車火災訓練

その他の取り組み

◆ 安全マネジメント活動

安全活動を単に事故防止することのみを目的とした活動として捉えるのではなく、「お客さまに安全安心を評価していただけることを目指す活動」及び「個々人がよりよい仕事をする中で事故の未然防止を目指す活動」として捉える職場風土の醸成を目指して、外部有識者の支援を受けながら人材育成を中心とした様々な活動に取り組んでいます。

【取り組み事例】



安全マネジメント講習



安全向上取組発表会表彰式

◆ お客さまの安心に向けての取り組み

■ 女性と子どもの安心車両

平日始発から午前9時までの間、地下鉄南北線と東西線で以下のお客さまがご乗車いただけます。

- ・ 女性と小学生以下のお子さま
- ・ お身体の不自由なお客さまと介護するお客さま



■ ベビーカーをご利用の方

地下鉄ご利用時はベビーカーを折りたたまず、混雑した車内でも車いすスペースを優先利用できます。また、ベビーカー利用者が安心して利用できるようにポスターの掲示やキャンペーンを実施し、他の旅客へ理解を深める周知及び啓発をしています。



■ 運行障害時の多言語表示

地下鉄の運行に遅れや乱れが生じた際、海外からのお客さまにも情報をお届けするため、改札口に設置する急告板及びホームやコンコースにある案内表示器(第3世代のみ)にて、多言語(英語・韓国語・簡体字・繁体字)でも、情報提供を行っています。



急告板



案内表示器(第3世代)

4

事故の状況

【事故種別】

運転事故：列車と車両の衝突、脱線、火災、人身傷害など運転によって生じた事故
輸送障害：運転事故以外で、地下鉄や路面電車が運休又は30分以上の遅延が生じた事態
インシデント：運転事故が発生するおそれがあったと認められる事態

2025年度 地下鉄 事故発生状況

事故件数及び内訳

輸送障害 …… 3件
運転事故 …… 0件
インシデント …… 0件

輸送障害内訳：11月3日 東西線大通駅 アルミ/バルーン接触に伴う運休
12月8日 南北線 震害
2月23日 南北線 線路内立入による運休

輸送障害の事例

- 日 時：令和7(2025)年11月3日 15時06分頃
- 概 要：15時06分頃、東西線大通駅付近のトンネル内でアルミバルーンが電車線に触れてショートし、広範囲の停電が発生したため、東西線全線の運転を停止した。電力の復旧作業と並行して順次折り返し運転を再開したが、駅停車中の2つの列車においてバッテリー上がりにより走行不能となった。走行不能列車を退避させる措置を講じるとともに、徐々に運行区間を拡大し、21時03分に全線で運転を再開した。
影響人員：約30,000人 運休：180便

2025年度 路面電車 事故発生状況

事故件数及び内訳

輸送障害 …… 0件
運転事故 …… 0件
インシデント …… 0件

輸送障害内訳：軌道整備事業としての運転事故等は発生しませんでした。

5

お客さまへのお願い

◆ エスカレーターのご利用について

エスカレーターを歩くと、振動による緊急停止や接触事故につながり危険です。左右ともに歩かず、手すりにつかまってご利用ください。



◆ 乗車中のお願いについて

通行の妨げになる場合がありますので、リュックサックは背中から降ろして前に抱えるか、手をもってご乗車願います。

また、乗降口付近は混み合いますので、ご乗車の際はドア付近に立ち止まらず、車内中ほどまでお進みください。



本報告書に関するご意見をお寄せください

TEL: 011-212-1423 / FAX: 011-213-0468
ホームページ: <https://www.city.sapporo.jp/st/>
編集発行: 札幌市交通局
Sapporo City Transportation Bureau



安全報告書 2026

ダイジェスト版



札幌市交通局

過去の地下鉄・路面電車子ども絵画展理事長賞受賞作品

本報告書の「本編」を、札幌市交通局ホームページにて公開しています。

<https://www.city.sapporo.jp/st/anzenhokoku/houkokusyo.html>



ごあいさつ

日頃から、札幌市営交通をご利用いただき、誠にありがとうございます。

私たち札幌市交通局は、かけがえのない市民の財産である地下鉄と路面電車を最大限に活用し、公共交通ネットワークの中核として、お客さまの「ゆたかな暮らし」と「まちの発展」を支えることを経営理念としており、効率的な事業運営を行うことで、札幌市民や札幌市を訪れる皆さまの快適な移動を支え、永く守り、今後も安全で確実な輸送サービスを提供することを責務としています。

2019年に策定した「札幌市交通事業経営計画」では、「安全の確保」、「快適なお客さまサービスの提供」、「まちづくりへの貢献」、「経営力の強化」という4つの経営方針を定めており、これに基づいて、お客さまの安全性・利便性の向上や効率的な経営に取り組んでいます。

昨年度は、クレジットカードのタッチ決済による乗車サービス実証実験を開始し、地下鉄全49駅の一部改札機にタッチ決済専用リーダーを搭載いたしました。

今年度は、2024年度から引き続き車内防犯カメラの設置の加速や駅ホームの段差・隙間の縮小に向けた改良工事などを行います。また、暑さ対策として、南北線の駅構内にスポットクーラーを設置するとともに、地下鉄車両への空調導入について調査業務を行うなど、お客様により快適で、安心・安全にご利用いただくための取り組みを進めてまいります。

路面電車事業(軌道整備事業)については、乗車定員を拡充した新たな低床車両(ポラリスII)を計画的に導入するなど運行環境を整備し、運送事業者である(一財)札幌市交通事業振興公社と引き続き緊密な連携を図りながら、輸送の安全性の向上に努めます。

本報告書は鉄道事業法第19条の4に基づき、当局の2025年度における輸送の安全に関する取組について公表するものです。今後も安定した輸送を確保するため、皆様からのご意見やご感想をいただければ幸いです。



交通事業管理者
梅田 岳

1

安全方針と安全重点施策

安全方針

輸送の安全を確保するための基本的な考え方として「安全方針」を掲げるとともに、これを達成するための具体的な指針として「行動規範」を制定しています。

札幌市交通局安全方針

私たちは、輸送の生命である「安全」を確保するため、法令及び規程を遵守すると共に、安全最優先の原則を基盤とした厳正な職務の遂行と不断の努力により、確固たる安全管理体制の維持・発展に向け、一丸となって全力で取り組みます。

2025年度 札幌市交通局 安全重点施策

輸送の安全確保のための管理の方針として、年度ごとに「安全重点施策」を策定しています。

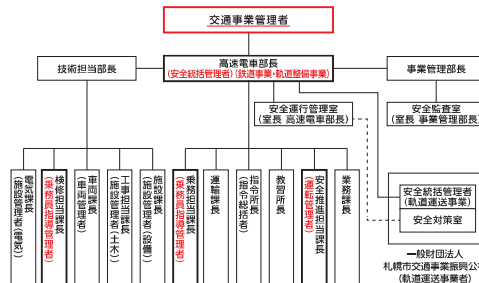
札幌市交通局 安全目標

- 1 基本の徹底による安全輸送の継続
- 2 知識・経験の共有(継承)を通じた組織力の向上
- 3 非常事態への迅速・柔軟な対応
- 4 防災・減災に向けた取組の推進

2

安全管理体制

安全管理体制図



■ 路面電車事業の体制について(上下分離)

札幌市交通局は、路面電車事業を旅客運送主体と施設・車両の保有整備主体に切り分ける、上下分離を2020年度に導入しました。

上下分離後も、連携会議の設置、事故速報体制における情報共有を行う等、上下間で緊密な連絡・連携により、輸送の安全の水準の維持及び向上を図ります。

安全に関する組織と会議体

安全管理体制の維持と向上のため、各種組織及び会議体を設置しています。

- 安全推進連絡会議
- 事故防止検討委員会
- 安全運行管理室
- 安全監査室
- 軌道事業安全連携会議



事故防止検討委員会

安全監査(内部監査)

「札幌市交通局安全監査室」による安全監査(内部監査)を実施しています。2025年度の是正・改善措置要求事項はなく、適正に行われていることを確認しました。

事故等の速報体制

事故・災害等発生時における、職員間の情報共有や利用者への情報提供を迅速に行えるような体制としています。

3

輸送の安全確保に向けた取り組み

鉄道(地下鉄)事業の安全対策

◆ 可動式ホーム柵

ホームからの転落事故や列車との接触を防ぐための設備として、3路線すべての駅に設置しています。



東豊線可動式ホーム柵

2025年度駅施設等設備更新内容

- 施設設備更新 南北線 北24条駅 北行線パンク検知電気装置更新
真駒内駅 転てつ器制御装置更新
東西線 宮の沢駅 転てつ器防食被膜塗装
大通駅 パンク検知地上装置踏板更新
南郷13丁目駅・新さっぽろ駅
- エスカレーター更新 東西線 東豊線 米町駅
- 無停電電源装置蓄電池更新 南北線・東西線 大通駅
- 高圧設備更新 東西線 琴似駅・二十四軒駅・西28丁目駅・西車両基地
- 変電設備更新 琴似変電所・大谷地変電所
- 信号電源装置蓄電池更新 白石駅・ひばりが丘駅・東車両基地
- 電力管理システム更新 東豊線

◆ 非常通報ボタン(車内)、非常用インターホン(ホーム)について

地下鉄車内や駅構内で非常事態の発生を確認した場合は、躊躇することなく、非常通報ボタンや非常用インターホンを押してください。

また、使い方を詳しく解説した動画を局ホームページ及びYouTubeにて公開しています。



客室非常通報装置



ホーム非常用インターホン・非常列車停止ボタン

軌道(路面電車)事業の安全対策

◆ 停留場の改修

乗降時の車両との段差を解消するため、停留場の高さを15cmから30cmにかさ上げするほか、スロープや手すりの設置等の改修や、横断歩道に面していない停留場(中間停留場)についても、横断歩道に面した場所へ移設する工事を順次実施しています。

また、街路の拡幅工事を実施する区間の停留場については、上記に加え、停留場の幅を1.5m以上に広げ、バリアフリー化を行います。



東本願寺前停留場(内回り) 改修前



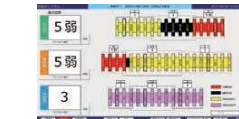
東本願寺前停留場(内回り) 改修後

防災対策

◆ 地震対策

■ 独自の地震計の設置

札幌市交通局では、地下鉄の各線3駅ずつ、計9か所に独自の地震計を設置し、2024年4月から運用を開始しております。地震が発生した際は9か所の地震計の震度により点検区間を迅速に決定し、安全が確認できたエリアから運行を再開いたします。これまでは気象庁震度により点検等の判断をしていましたが、各線に独自の地震計を設置したことにより、より細やかな運行可否の判断が可能となりました。



地震計システム画面



地震計の写真

◆ 水害対策

■ 浸水防止対策

浸水を防ぐための設備として、一部の駅出入口及び変電所に「止水板」や「止水扉」を設置しています。その他、「土のう」や「止水シート」、「プラスチック製簡易止水板」を設置しています。

◆ 火災対策

火災発生時に煙の拡散を防止して安全に避難できるよう、ホーム階段部に「防火扉」「防火シャッター」を設置しています。また、車両火災時の被害拡大を防ぐ設備として、車両の連結面に「車両間仕切り扉」を車両更新時に順次設置しています。

◆ テロ対策

テロ等が発生した場合の事件解決の対策として、地下鉄全駅のホーム・コンコース階及び路面電車停留場の各所に監視カメラを設置し、運行状況や混雑状況の把握にも活用しています。また、2024年度から地下鉄利用の更なる安全・安心実現のため、車内の録画機能付きカメラの増設を順次行っています。